はじめに

1992 年にブラジルで開催された地球サミットにおいて、地域の環境協力を推進することが提唱され、そのフォローアップの一環として、翌 1993 年第 1 回環日本海環境協力会議（以下、NEAC）が富山県において開催された。日本、中国、韓国、モンゴル、ロシアの参加各国は、中央と地方レベルにおける環境問題に対する理解を深め、それぞれの環境政策を促進することを目的に、環境汚染の防止対策やその他の北東アジアの環境に関する相互、共通の関心事項について定期的に意見交換、情報交換を行うことを決めた。

NEAC は、政策決定や合意形成の場ではなく、国レベルのみならず地方自治体、NGO 等、あらゆるレベルによる自由率直な意見交換の場として、柔軟に議題・テーマ・参加者を設定し、各国における環境の現状に対する相互理解を深め、域内における環境問題に対する見解の調整や、環境保護に関する協力の強化に貢献してきたことには、高く評価されているところである。

一方、地球サミット開催から 14 年が経ち、北東アジア地域には、日中韓三カ国大臣会合（TEMM）、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）、北東アジア地域環境協力プログラム（NEASPEC）他、環境協力を推進する枠組みが複数創設され、その傘下に多種多様なプロジェクトが展開されるようになった。地球サミットによって蒔かれた地域環境協力イニシアティブの萌芽期を経て、各種取組みを包括的に見直し、より効率的に地域の環境保全を推進すべく模索が始まっている。

本報告書は、環境省から平成 17 年度委託事業として受託し、平成 18 年 2 月 22 日に東京で開催された「第 14 回環日本海環境協力会議」の内容をとりまとめたものである。各種取組みの包括的な見直しを行うという気運の中で、NEAC もまた自らの役割を見直すことを議題として取り上げた。北東アジア地域は、政治・経済形態や歴史・社会認識の違いから、地域協力枠組みの空白期間が長く続いた。差異を乗り越え、環境共同体としての認識を深めることの重要性を参加各国は共有している。環境保全に携わる関係者の自由な討論の場は、地域環境協力の枠組みが形成途中にある間は必要であろう。NEAC が、地域の枠組み形成に寄与し、ひいては地域の環境保全協力に貢献し続けることに大きな期待を寄せている。

平成 18 年 3 月

社団法人海外環境協力センター
理事長　　森　　仁美